



名古屋城天守閣の整備

◆平成29年度の実施内容

5月 竹中工務店と基本協定書、基本設計契約等を締結
 ⇒基本設計、石垣調査等の実施

<天守閣部会>

<石垣部会>

月日	主な内容	月日	主な内容
5/10	・経緯、スケジュール ・復元の時期	5/12	・石垣の基礎調査
6/15	・通し柱	6/23	・石垣の基礎調査
7/13	・現天守閣の価値 ・木材の材種・数量	8/9	・石垣の基礎調査
8/7	・構造計画、通し柱	9/12	・石垣の詳細調査
8/29	・構造計画		
11/16	・復元の意義 ・バリアフリー対策		
12/20	・主架構用木材 ・屋根仕上げ		

7月 天守閣木造復元への寄附（金シャチ募金）の開始

1月 石垣詳細調査の実施

◆今後のスケジュール

時期	内容
2018年 5月	現天守閣閉鎖（入場禁止） ※本丸御殿など他に施設は開館 しています。
2019年 3月	現天守閣E V解体工事着手
9月	現天守閣本体解体工事着手
2020年 6月	天守閣木造復元本体工事着手
8月	見学施設オープン
2022年12月	天守閣木造復元竣工

◆特別史跡名古屋城跡保存活用計画の策定

○概要

事項	内容
目的	特別史跡名古屋城跡の保存活用計画を適切かつ確実に進めるため、文化庁からの指導に基づき、保存・活用・整備・運営体制の観点から現状及び課題を整理し、各々の方針を示す。
目標	近世城郭の姿を現代に伝える特別史跡名古屋城跡の価値の確実な継承と魅力の最大限の向上により、世界に誇れる日本一の近代城郭を目指す。
その他	2017年12月 特別史跡名古屋城跡保存活用計画（案）の公表 2018年1月～2月 パブリックコメント 3月 特別史跡名古屋城跡保存活用計画の策定

○特別史跡名古屋城跡の本質的価値

御三家筆頭の尾張徳川家の居城であった城跡

- ・公儀普請によって築城された城郭
- ・近世城郭築城技術の完成期に築城された城郭
- ・徳川家康の意志を強く反映する城跡
- ・徳川幕府の対豊臣方への備えという当時の社会情勢を示す城郭

現存する遺構や詳細な史資料により築城期からの変遷をたどることができる城跡

- ・現存遺構から往時の縄張や近世城郭の完成期の姿を知ることができる城跡
- ・現存する豊富で詳細な史資料等によって往時の姿を知ることができる城跡
- ・管理者が変わる中で各時代に応じた保守・記録と活用がなされてきた城跡
- ・近世における改修・改変を詳細に知ることができる城跡

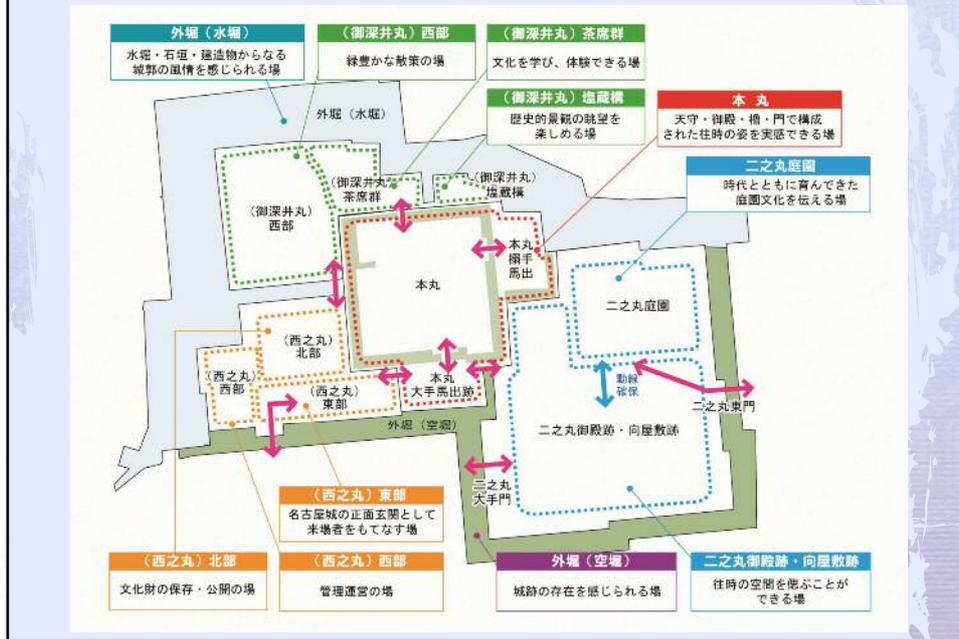
現在の名古屋へと続く都市形成のきっかけとなった城跡

- ・現代の名古屋の都市形成の始まりとなった名古屋城築城

○方向性

項目	内容
保存	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画の保存管理方法に従い、現存遺構等の適切かつ厳格な保存管理を行う ・本計画の植栽管理方針に従い、城跡としての風致を維持・向上する植栽管理を行う ・本計画の現状変更等の取扱方針・基準に従い、本質的価値を著しく損なうことなく保存・活用事業を進める
活用	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な範囲・方法で公開し、往時の名古屋城の姿を正確に伝える ・展示施設など諸施設を充実させ、名古屋城の歴史や価値等をわかりやすく伝える ・企画・イベントを充実させ、名古屋城への理解を深めるとともに名古屋城の魅力向上を図る ・金シャチ横丁や周辺の歴史的関連資産等との連携を図り、回遊性の向上を図る
整備	<ul style="list-style-type: none"> ・現存遺構等の適切な修復整備により、往時の名古屋城の姿を伝える遺構等を後世へ継承する ・失われた建造物等の復元整備等により、往時の名古屋城の姿の理解を促進させる
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋城総合事務所の調査研究体制を強化し、計画的・継続的な名古屋城の調査研究を進める ・有識者で構成する検討会議を継続し、特別史跡名古屋城跡の保存・活用を適切に進める ・さらなる魅力向上を図るために、効率的な運営・体制を検討する

○整備の考え方



○整備の主な内容

(1) 本丸

ア 天守閣の整備

外観だけではなく内部空間を含めてより真実性の高い復元を行うことにより、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解をさらに促進させるため、整備方針は木造復元とし、検討を進める

イ 本丸御殿の復元整備（整備中）

平成30年（2018年）の全体公開に向けて整備を進めるとともに、障壁画の復元模写については予定している1325面の完成に向けて計画的に進める
⇒6/8より全体公開

ウ 東北隅櫓の整備

天守と他の2つの櫓と合わせ、本丸の四隅を構成していた重要な櫓であったことから、嚴重であった本丸の防備をより実感させるため、復元整備を検討する

(2) 二之丸

ア 二之丸庭園の保存整備（整備中）

『名勝名古屋城二之丸庭園保存管理計画書』に基づき、庭園全体の保存整備を進める。また、二之丸庭園北御庭園池の東に面して建築されていた御茶屋「余芳」について、解体部材が現存していることなどから、二之丸庭園保存整備の中で復原整備を検討する

イ 二之丸御殿・向屋敷の復元整備等

尾張藩の政庁と藩主の住居の機能を持つ二之丸御殿、馬場や弓場から成る向屋敷は二之丸庭園と併せて、広大な敷地を有する二之丸を構成していたことから、愛知県体育館の移転を見据え、復元整備など特別史跡にふさわしい整備を検討する



(3) 西之丸

ア 展示収蔵施設の整備（整備中）

近世の御蔵構全体の空間を認識できるよう、6棟あった米蔵のうち三番・四番御蔵の位置に米蔵の外観意匠に準拠した展示収蔵施設を整備し、残る一番・二番・五番・六番御蔵については米蔵の地下遺構の平面表示を行う

(4) 御深井丸

ア 西北隅櫓の修復整備

劣化状況調査や耐震診断を実施し、保存状況に応じた適切な修復計画を策定した上で、修復整備を行う

(5) 石垣

名古屋城の歴史を物語る広大な石垣について、調査研究を推進するとともに、現況調査を踏まえた石垣カルテを作成しそれに基づいて石垣の保全方針及び修理・修復計画・方法を定め、来場者の安全性の確保が急がれる部分や崩落等の危険性の高い部分から順次修復整備を行う

◆名古屋城の整備の状況

